





企業名：株式会社図研
業種：製造業における製品設計・開発業務全体の高度化・最適化を支援する、各種ITシステムの開発・製造・販売
本社所在地：横浜市都筑区
URL：http://www.zuken.co.jp/



「**ライムライト・ネットワークスのCDNサービスを採用したことで、グローバルのユーザーに対して均一化されたコンテンツを高品質に配信できるようになりました。安定したWebアクセスの実現により、サポート業務における運用効率化も図れています**」

株式会社図研
EDA事業部 グローバルITセクション
セクション責任者
鎌倉弘茂氏

 Content Delivery Services
 Cloud Storage Services

グローバルに提供される 高品質で均一な図研のサポートを支える ライムライト・ネットワークスのCDNサービス

株式会社図研(以下、図研)は、製造業における製品設計・開発業務全体の高度化・最適化を支援するための各種ITシステムの開発・製造・販売、およびコンサルティングサービスを提供しています。IoT時代の到来を見据えた最新の電子機器設計ソリューションである「CR-8000 Design Force」をはじめとしたソフトウェア製品は、世界各国の製造業に活用されています。同社では、グローバルに広がるユーザーに向けたサポートサイトも運営していますが、課題として浮上していたのが、Webアクセスやコンテンツ配信におけるパフォーマンスの向上でした。

図研の課題 | ビジネスのグローバル化で急務となっていた 統一化されたサポートの実現

図研はWebサイト「Zuken Global Support」を介して、世界各国のユーザーに様々なサポートサービスを提供しています。新製品情報の提供をはじめ、ソフトウェアのダウンロードや更新ファイルの配信、さらには「Q&A事例」では賄いきれないユーザーの個別の問合せにも対応、公開しています。同サイトを利用したことのあるユーザーの累計数は、2016年8月末時点で世界47か国、4,000ユーザーにも達しているといえます。

Zuken Global Supportを構築した背景には、製造業のグローバル化のさらなる進展により、製造工程のみならず設計・開発についても国境を越えた企業どうしのコラボレーションの急進がありました。EDA事業部 グローバルITセクションの責任者を務める鎌倉弘茂氏は、「当社のソフトウェア製品は広く海外の企業にも利用いただいておりますが、海外ユーザーのサポートは各現地法人が個々にサポートサイトを構築、実施していました。しかし、製造業のグローバル化、ボーダレス化が進む中、世界各国のユーザーに対して均一で高品質なサポートサービスを提供するため、2011年、サポートサイトの統合を決定。併せてサポートシステムも再構築しました」と、説明します。

そうした中で浮上していたのが、統合したサポートサイトへのアクセスにおけるパフォーマンスの問題でした。EDA事業部 グローバルITセクション 加治屋博之氏は、「メインのサーバーを日本に設置しているため、地理的に離れた欧州やアメリカ等からアクセスした場合、『ダウンロードが遅い』『レスポンスが悪化する』という問題が発生していたのです」と、振り返ります。



図研の要件 | 高速で安定したWebアクセスと充実したサポートを要件に CDNサービスのリプレースを決定

そこで着目したのが、高品質かつ安定的な配信を支えるContents Delivery Network (CDN)の仕組みであり、図研は2012年9月からCDNサービスの利用を開始しました。しかし、当時導入したCDNサービスは期待していたレスポンスの向上が実現されず、時には配信が不安定であったといえます。加えて、高品質なグローバルサポートを安定して提供し続けるためには、CDNベンダーからの手厚いサポートも不可欠です。しかし、以前のCDNベンダーのサポートは、図研の要件を満たす品質に達していなかったことも課題として挙げていました。そうしたことから、図研は2014年、CDNサービスのリプレースを決定。「高速で安定したWebアクセス」「トラブル時の迅速な対応」を要件に掲げ検討した結果、新たに採用されたのが、ライムライト・ネットワークスのCDNサービスでした。



「導入も容易で、DNSの設定を変えるだけで、すぐに使えるようになりました。また、ライムライト・ネットワークスからは事前に資料の提供や検証にあたっての技術サポートもしてもらえ、さらに作業をスムーズに進められました」

株式会社図研
EDA事業部 グローバルITセクション
グループリーダー
加治屋博之氏

 Content Delivery Services
 Cloud Storage Services

図研の選択 | Webアクセスのパフォーマンスを大幅に向上させた ライムライト・ネットワークスのCDNサービス

ライムライト・ネットワークスのCDNサービスを採用した最大の理由は、そのパフォーマンスにありました。「2014年5月にテスト環境を構築、海外現地法人の協力を仰ぎながら、ソフトウェアのダウンロードやWebの表示速度について検証を行いました。結果、これまで1GBのデータをダウンロードするのに1時間以上要していたのが、十数分にまで短縮されたのです。特にデータサイズが大きくなればなるほど、その差は顕著に表れました」と加治屋氏は話します。

こうした高速かつ安定したWebアクセスが実現できている理由は、ライムライト・ネットワークスのインフラの仕組みにあります。ネットワークのアクセスポイントとなる各大規模配信拠点は、十分なキャパシティが用意されているとともに、配信拠点間はプライベートネットワークで連携されています。これにより、世界中どの場所からでも安定かつ高速化されたWebアクセスやコンテンツ配信を実現しています。

2014年8月からライムライト・ネットワークスのCDNサービスの利用が開始されましたが、以後、高品質かつ安定したWebアクセスが実現されています。今回のプロジェクトでは、ライムライト・ネットワークスのクラウド型ストレージサービスも合わせて導入されましたが、さらなるWebアクセスの高速化、そして運用管理負荷の抑制に貢献しています。

「クラウド型ストレージサービスの導入により、1箇所ではなく、リージョン毎にコンテンツがコピー、配信されるため、欧州、アメリカ、アジア等のユーザーが、自身の拠点に近い場所からコンテンツへアクセスできるようになりました。加えて、キャッシュミスが発生してもグローバルをカバーする最寄りのクラウドストレージからコンテンツが配信されるので、どこの地域からでも快適なコンテンツアクセスが実現されています。一方、一度、コンテンツをライムライト・ネットワークスのストレージにアップしてしまえば、自動的に海外の他の拠点にも展開してくれるので、アップロードに関する運用の手間も削減されました」(鎌倉氏)。

一方、もう1つの要件として掲げた充実したサポートについても、加治屋氏は「万が一、障害が発生した場合でも、ライムライト・ネットワークスは迅速な対応をしてくれます。また、経過報告も都度連絡してくれるので進捗状況も把握しやすく、安心してサービスを利用できています」と評価します。

ライムライト・ネットワークスのCDNサービスとクラウド型ストレージサービスによって、高品質なWebアクセス環境を実現できた図研。今後は、動画コンテンツの配信が増え始めた同社のコーポレートサイトにもライムライト・ネットワークスのCDNサービスを適用、展開していく計画だといいます。「早ければ年内中には、欧米のコーポレートサイトに適用していきたいと考えています。その際にもライムライト・ネットワークスには、引き続き私たちの要望を満たすサービス、そして手厚いサポートをお願いしたいと考えています」と鎌倉氏は期待を述べました。